

「写真が語る、いのちのバトンリレー」

写真家・ジャーナリスト 國森康弘 講演会 参加者アンケート

実施日：平成29年11月22日(水)13:30～15:30

延べ参加人数：205名

アンケート提出者数：136名

アンケート回収率：66.3%



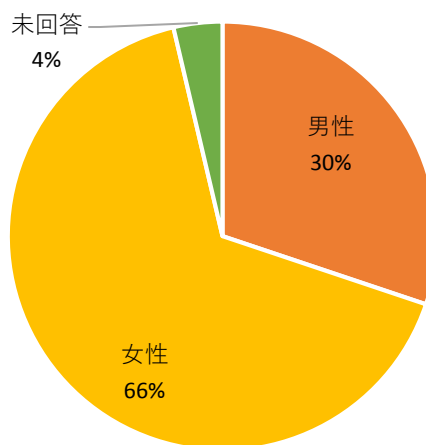
写真絵本『いのちつぐ「みどりびと」』(農文協 12巻)の第1巻『恋ちゃん初めての看取り』より

【アンケート回答者の状況】

1 あなたの性別・年代をお答えください。

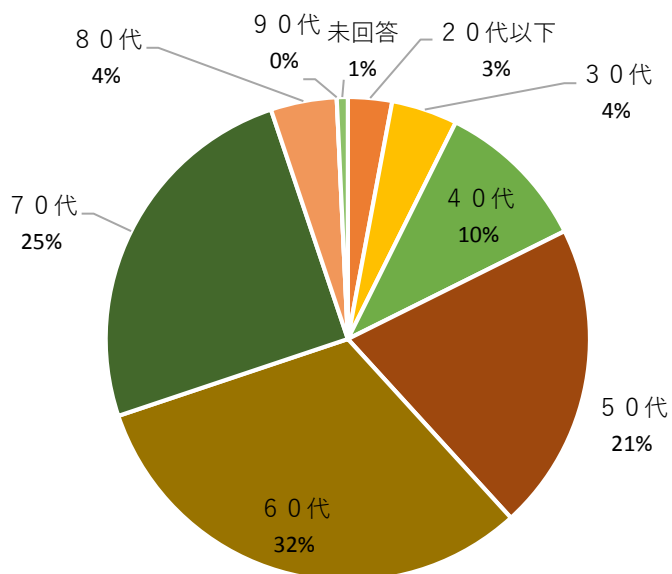
性別

男性:	41名
女性:	90名
未回答:	5名
合計:	136名



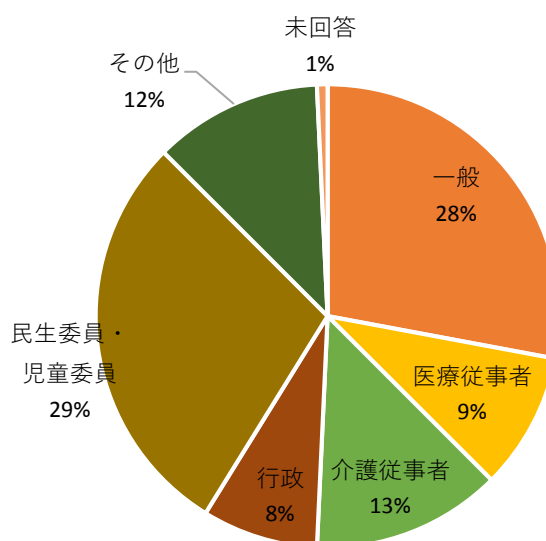
年代

20代以下:	4名
30代:	6名
40代:	14名
50代:	28名
60代:	43名
70代:	34名
80代:	6名
90代:	0名
未回答:	1名
合計:	136名



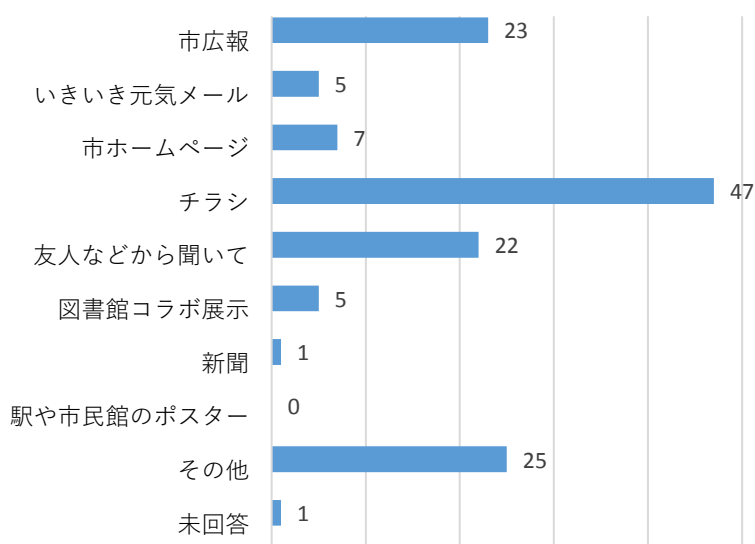
2 あなたの職種についてお答えください。

一般:	38名
医療従事者:	13名
介護従事者:	18名
行政:	11名
民生委員・児童委員:	39名
その他:	16名
未回答:	1名
合計:	136名



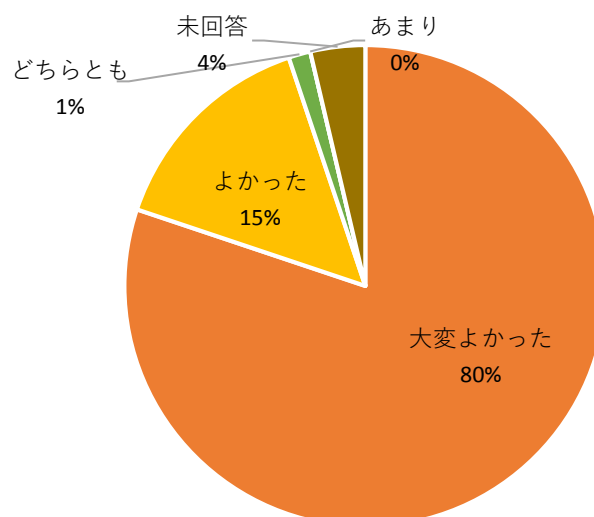
3 本講演会について、どこでお知りになりましたか。

市広報:	23名
いきいき元気メール:	5名
市ホームページ:	7名
チラシ:	47名
友人などから聞いて:	22名
図書館コラボ展示:	5名
新聞:	1名
駅や市民館のポスター:	0名
その他:	25名
未回答:	1名
合計:	136名



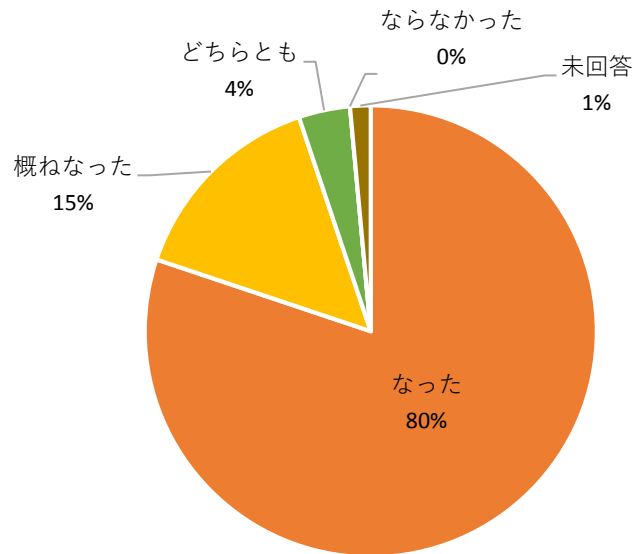
4 本日のプログラム中、「写真が語る、いのちのバトンリレー」については、いかがでしたか。

大変よかった:	109名
よかった:	20名
どちらとも:	2名
あまり:	0名
未回答:	5名
合計:	136名



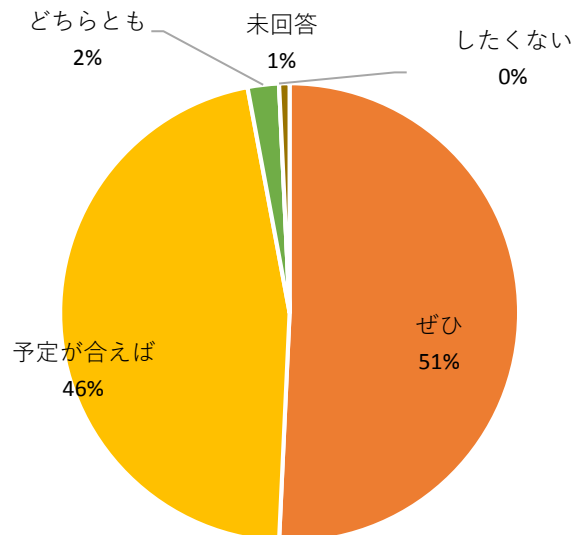
5 本日の講演を通して、在宅での看取りについて考えるきっかけとなりましたか。

なった:	109 名
概ねなった:	20 名
どちらとも:	5 名
ならなかった:	0 名
未回答:	2 名
合計:	136 名



6 次年度以降も、市民向けのシンポジウム・フォーラム等の開催を予定しています。次回も参加したいと思いませんか。

ぜひ:	69 名
予定が合えば:	63 名
どちらとも:	3 名
したくない:	0 名
未回答:	1 名
合計:	136 名



7 記述回答 ※原則として、ご回答いただいた内容をそのまま記載しています。

(1) 本講演会に参加して、あなた自身が新たに気づいたことや、今後、こうしてみようと感じたことなどについて自由に記載してください。

- ・在宅医療の必要性について家族と話し合いたいです。
- ・写真集を見ていたら涙が出てたまらなかったです。
- ・大変良かったです。在宅で看取りを行う事の大切さを改めて見つめさせて頂きました。
- ・亡くなられる方の最期の希望は可能な限り聞き入れたいです。家族と友達を大切にしようと思いました。
- ・96才の母は老人ホームに入所しています。認知症も進んでいますがやはり家に帰りたいと言ってます。最後は家で看取りたいと思っておりますが、いろいろな人の協力が必要なのだと感じました。
- ・地域の力。以前ほど地域での人のつながりが無くなってしまってますが、今自分が関わっている地域の仕事をきちんとやっていこうと思いました。
- ・町内会等に進んで参加する等、多くの人とかかわりを持っていきたいです。

- ・ 自宅での看取りが現実として当市で実行できるのでしょうか？
- ・ 死に向かう様子を子供に見せる事はとても大きな仕事だと思います。
- ・ ありがとうございます。看取りの見方、とらえ方が変わりました。
- ・ 地域のあり方、コミュニケーションが大切だと思います。
- ・ 地域包括、住民の交流など日常出来ることから参加したいと思います。
- ・ 近頃寝てばかりいる義父は94才、何を思っているのか最期をどう迎えたいと思っているのか考えてしまいました。今日、主人と話してみたいと思います。
- ・ この様な最期のあり方もいいかもと思いました。
- ・ 看取りにも色々ありますが、地域包括ケアが進むと良いですね。心が温かくなりました。
- ・ 人はいつか終わる時が来ますが、その人生に寄り添っていきたくて思いました。素晴らしかったです。
- ・ もっと多くの方が自宅で最期を迎えられるようになったらいいなと思いました。
- ・ 地域包括ケアシステムが成り立つためには、社会制度のみでは不足している。ボランティアや近所の人などの温かい支援が大切と思いました。あたたかな看取りに憧れます。亡くなった母や祖母を思い出しました。
- ・ 生きる意味について考えさせられました。今、看護を学ぶ身として看取りに関して、「生きるとは」について考える機会になりました。これから看護を学ぶ上でもいい経験になりました。
- ・ あたたかい死という言葉が初めて聞きました。希望される方がみえたら介護職としてお手伝いしたいと思いました。自宅で最期を迎えるのは理想と思いますが、地域包括ケアが進んでいくことが珍しい事ではなくなる日が来ると良いです。
- ・ 家で望む暮らしをかなえる事が本人の生きる力となり、周りの人々へ多くのメッセージを残すことになることを強く感じられました。
- ・ 介護の仕方について悩んだりした時もありましたが、これに参加させて頂いてこのままこの道を進んでいこうと思いました。
- ・ 自宅で看取りをされる方の支援をさせて頂くことが最近増えています。医療的な支援が多く、なかなか表に出る事を躊躇してしまう気持ちになりますが、私にもできる支援が沢山有ると感じました。
- ・ 今まで人が亡くなった時、年齢、苦しまなかったかどうか気がなっていました。しかし、これからは人の死→一生懸命生きたかどうかがとても大切と気づきました。ありがとうございました。
- ・ 自分自身の生き方について、大いに考えさせてもらえました。
- ・ 死ぬのが嫌だな…と思っていた理由は残された家族の事が心配だからです。今日のお話は介護の人、家族、地域の人々がいてくれる安心感がありました。私は80才を過ぎた両親と暮らしています。夏に父が入院していました。医師はリハビリ施設が決まるまで2週間ほど退院できませんと言いましたが、父のケアマネジャーさんと相談し、自宅に戻りました。あのまま白い壁の病室に居たら完全にボケて体も弱っていたと思います。自宅と家族が一番いいです。
- ・ 家族っていいなと改めて感じました。ホームホスピスが有るといいと思います。
- ・ 活動をする上で様々な場面で生かしていきたいです。

- ・ 自分も家で死を迎える事が出来たらと思います。（3件）
- ・ 在宅医療は家族の事情や家族構成により異なるので、行政側の体制も重要です。
- ・ 主人が病気になってもう12年になろうとしています。骨折してから2年あまり歩くことが出来なくて肺も悪く、その中で出来るだけ優しく接しているのですが、命についてをもう一度考える事が出来ました。ありがとうございました。
- ・ 写真を見て私もこのように優しい心になれるだろうか？もっともっと多くの人に聞いて欲しい、参加してほしいと思いました。
- ・ 「今」を大事に生きてみたい、素敵なのはフットワークが軽いと思いました。
- ・ 自分と親のつながり、これから老いとの付き合いをもう一度考え直したいです。
- ・ 終末期と一緒に傍にいてあげるだけで、おじいちゃんやおばあちゃんに安心感を与えられると思いました。もう少しおじいちゃん、おばあちゃんと話したいと思いました。
- ・ 人生の意義が人間愛という事。自分もこの様な気持ちを持って人生を過ごしたいです。
- ・ 少しでも東近江市に近づきたいと思います。國森さんの言葉使い、言い回しが優しくて心にしみました。
- ・ 死生観を自分がしっかりと考える。あたたかい最期をより多くの方が迎えられたらと思いました。
- ・ 以前から思っていました、自分でも出来ると思いました。
- ・ 自宅で看取ってもらえるのはとても幸せなことだと思いました。
- ・ 小・中・高生にも聞かせたい内容でした。是非、学校教育で取り入れて頂きたいと思います。
- ・ 写真をみんなが見て、市や関係機関、市民が在宅での看取りに前向きになってくれると良いと思いました。
- ・ 両親や子供等、自分の家族について考える機会になりました。
- ・ 生きる大切さ。今日一日を今後とも、充実する日々を過ごしたいと思います。
- ・ 在宅での看取りには家族はもちろん、医療、介護の横の連携がとても大切だと改めて思いました。写真の亡くなった方々は、皆さん穏やかな顔でした。
- ・ 何れ自分の家族が亡くなった時、素直に「ありがとう」と言えるような関係でありたいと思いました。
- ・ 家族、親戚、地域においても、生まれ、去る、それをつなぐことの大切さ、つなぐとは人の心に残る何かがあると思いました。
- ・ 本講演会に参加してとても感動しました。私も今後、親を介護する立場としてとても暖かな気持ちにして頂きました。大変な思いばかりでなく、皆に助けを求めながら最後まで看取る事、寄り添う事が出来ればと思います。私の心に暖かな思いをもたらして頂いてありがとうございました。
- ・ 「何かあったらどうするんだ」ではなくて、「何かあるのはあたりまえ、何かあるために準備をしておく」というのが当たり前地域に浸透するよう、引き続き死生観について理解を深める機会を持つこと、1回やって終わりではなく定期的にあり続けることが大事だと思いました。
- ・ 実母が3年前に102才で自宅で老衰で死亡しました。自分の希望だったので、望み通り

100才まで生きられて喜んでいました。私も同じようにしっかり生きて楽しく人生を送りたいと思います。

- ・夫が希望すれば在宅での看取りをしたいと思います。体力が心配です。
- ・介護従事者として利用者にどのように接していくか、在宅介護の大切さ、家族の大切さを改めて考え直させられました。
- ・看取りについて反省し、深めていきたいです。

(2) 今後の市民向けシンポジウム・フォーラム等に望むことなど、ご記載ください。

- ・昼間働いてる人の為、夜間、土日とかも計画して下さるとありがたいです。
- ・在宅介護についてもっとリアルな話が欲しいです。どうしたら、写真のような介護が受けられるようになるのか知りたいです。
- ・何回か参加していますが、いつも良いです。
- ・今回の研修をもっと多くの人に聞いてもらいたいと思いました。
- ・小笠原文雄先生の在宅医療に大変興味があり本も読みました。是非本人の講演を聞いてみたいです。
- ・この様な機会を増やしてもらえると幸いです。(3件)
- ・自宅で看取るということが写真と言葉でわかりやすかったです。
- ・今回の講演で十分看取りの大切さが伝わりました。今後も頑張って講演をしてほしいです。
- ・より多くの人への広報活動に力を入れて欲しいです。
- ・今回のような実体験のシンポジウムを望みます。
- ・今回のように違う視点で見て地域を考えるフォーラムが良いと思います。
- ・高齢者は時間を持て余す人が多い為、もっとこういう会に引きずり出して欲しいです。
- ・この様な講演をもっと小学生、中学生、高校生に与えるべきだと思います。
- ・今後も高齢者が増加していくと思うので、体の調子が悪くなる前に出来ることとして、自分でできるセルフケアについての講演をして頂いたら、全世代に来ていただけるとと思います。

(3) その他の意見を自由に記載してください。

- ・今回の講演はとても良いものだと感じたので、休日に開催してもっと家族連れの方々にも来て頂いてもよかったと思いました。
- ・命は大切、近所づきあいも大切にする必要があると思いました。
- ・良い講演会だと思いました。
- ・今日見たスライドで自分自身も考える事が出来ました。
- ・自宅での看取りが豊川でも年月かけて自然になる日が来る様望みます。又協力していける様にしたいです。
- ・講演はとても良かったが、少し時間的に長いと思いました。
- ・涙を流しながら聴きました。感謝！
- ・地域包括ケアの重要性は十分ありますが、人の最期を自宅で迎えるかどうかはケアシステムの目的ではないと思います。人口の3割以上が高齢者時代にはやはり病院や施設の整備

がもっと必要だと考えます。

- ・心が温かくなるお話でした。本日はありがとうございました。
- ・とても良かったです。（2件）
- ・社会福祉会の講座などに参加させていただき少しでも地域のお役に立てればと思います。
- ・息が止まってから医者に連絡でよいことを知りませんでした。家で静かに最後を迎えられますね。
- ・これからの時代に考えて行かなければいけない事だと思いました。
- ・お話も写真も素晴らしかったです。来てよかったです。ありがとうございました。
- ・私の地域では年4回のサロン会を開催しています。年齢を重ねると情報が少なくなるので講演会は大変必要なことですが、大きな会場ではなかなか参加できません。出前講座は大変利用しやすいです。是非出前講座の充実をお願いします。



※講演会の当日から9日間開催しました「國森康弘写真展及び介護事業所作品展」には、述べ1,402名の方にご来場いただきました。ありがとうございました。

講演会への参加、アンケートへの協力、ありがとうございました。